

代表者名	菊池 勇咲	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日

【沿革及び県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】(19年度当初) (千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100,000	40.0
市町村	3	25,000	10.0
その他	15	125,000	50.0
計	19	250,000	100.0

【事業】

①主たる業務

十和田ホテルの諸施設の管理運営業務  
酒類、食料品、土産物等の販売  
上記各号に付帯する一切の業務

②事業実績 (人)

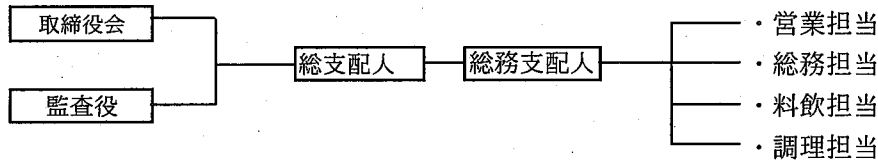
事業名等	16年度	17年度	18年度
宿泊客	18,793	19,222	18,111

③18年度事業概要及び19年度事業計画・目標

十和田湖への観光客入込み減少傾向に歯止めが掛からず、また低価格販売の弊出現により十和田湖のイメージは良いものではなかった。このような状況下、各旅行エージェントへ募集团体の販売強化を実施。また一般団体、個人客と各エージェントへのアプロ-チ強化。結果対前年募集は651名の増、一般団体▲995名、個人客▲767名となり、合計で対前年▲1,111名の18,111名となった。今年度は、引き続き好調な募集商品の販売強化をし、また一般団体の獲得強化を図る。そしてお客様満足度向上を目指し、ル-ク客の確保を図る。利用人員は対前年1,240名増の19,350名を目指す。経常利益は3,000千円を確保する。

【組織】

①運営機構



②役員数 (H19.6.28現在) (人)

	取締役	監査役
常勤	1	0
内、県退職者	0	0
内、県職員	0	0
非常勤	8	1
内、県退職者	0	0
内、県職員	1	0
計	9	1
内、県関係者	1	0

③職員数 (H19.4.1現在) (人)

正職員	8	正職員	正職員
内、県退職者		平均年齢	平均勤続年数
出向職員	1	30.4歳	2.8年
内、県職員			
臨時・嘱託			
内、県退職者		正職員平均年収	
計	9		3,700千円
内、県関係者	0		

役員報酬支給対象者数	1人
役員報酬支給対象者平均年齢	54歳
平均役員報酬額	11,400千円/年

【財務】

①損益状況 (18年度) (千円)

	金額
経常収入 A	341,777
受託事業収入	
補助金収入	
自主事業収入	341,695
運用益収入	
その他	82
経常支出 B	337,943
人件費	116,610
その他	221,333
経常損益 C = A - B	3,834
経常外収入	
経常外支出・諸税	290
当期損益	3,544

②財務状況 (18年度末) (千円、%)

	金額	構成比
流動資産	169,249	92.6
固定資産	13,565	7.4
資産計	182,814	100.0
流動負債	10,754	5.9
短期借入金	0	0.0
固定負債	0	0.0
長期借入金	0	0.0
引当金等	0	0.0
負債計	10,754	5.9
資本金	250,000	136.8
剰余金	-77,940	-42.6
資本計	172,060	94.1
負債・資本計	182,814	100.0

県の損失補償額	0	県の債務保証額	0
---------	---	---------	---

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	0	0	0.0%

【県の財政支出】 (千円)

	16年度	17年度	18年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費				
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	16年度	17年度	18年度	16-17増減	17-18増減
健全性	自己資本比率	%	89.06	86.04	94.12	▲ 3.02	8.07
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	1,345.30	1,090.19	1,573.82	▲ 255.11	483.63
収益性	剰余金 (▲欠損金)	千円	▲ 94,057	▲ 81,484	▲ 77,940	12,573	3,544
	経常利益率	%	▲ 2.33	3.80	1.12	6.13	▲ 2.68
	総資本利益率	%	▲ 4.39	7.06	2.10	11.45	▲ 4.96
発展性	経常収入額	千円	329,571	363,756	341,777	34,185	▲ 21,979
効率性	総資本回転率		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	職員1人当たり経常収入	千円	11,365	12,125	24,413	761	12,287
	人件費比率	%	32.56	32.21	34.12	▲ 0.35	1.91

2 経営目標の達成状況

経営目標			16年度	17年度	18年度	19年度
経営改善指標	経常利益額 (千円)	目標	20,000	20,000	20,000	20,000
		実績	▲ 2,901	13,825	3,834	
事業成果指標	売上高経常利益率 (%)	目標	5.7	5.7	5.7	5.7
		実績	▲ 2.3	3.8	1.1	
事業成果指標	売上高 (千円)	目標	353,000	353,000	353,000	353,000
		実績	329,571	363,722	341,695	
事業成果指標	個人客宿泊人数 (人)	目標	15,600	14,600	14,600	14,600
		実績	15,129	15,234	18,111	
	顧客満足度指数	目標	-	80	83	87
		実績	-	81	86	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

第10期における当期利益は3,500千円と黒字計上ができた。だが十和田湖への客数入込み減少傾向には歯止めが掛からず、これからも減少予測である。要因は個人客がベースとなりグループ・団体等の利用は望めない。各エージェントも個人ベースの商品開発に力を入れ、又インターネット予約が増加し商品の多様化が求められる。平成19年度は個人客の獲得強化を図るべく首都圏・仙台地区の各エージェントセールスを定期的実施し、引き続き販売強化を図り、売上目標達成を目指す。

今後の課題は、ホテルも改装後10年目を迎え施設の老朽化が目立ち始めている。昨年度は機器の修理等を実施したが、本年度は建物本体、特に屋根・風呂の修繕を実施しなければならない。又取水の場所も変更し、新たに井戸を発掘しなければならない状況にある。このような状況下で今後供、黒字計上を継続しなければならない。

4 総合評価 (計算書類等の資料及びヒアリングによる評価)

I 概ね安定した経営内容	II 一層の努力を要する経営内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊客が前年比1,111名減少し、売上高が22百万円減少しているので、経営成績は低下しているとみられる。前年度までの修繕引当金10百万円を取り崩して、改修等を行ったことにより当期利益が3百万円となっている。</li> <li>・ホテル改装後10年となり、営業戦略上重要な修繕計画と水源確保の課題を抱えているが、負担について県との取り決めが明確になっていない。</li> <li>・苦戦地域であるが、高品質化により収益力を向上させる基本方針となっている。</li> </ul>	